

ワークショップ1：日本の常識 海外の非常識

日本の常識 海外の非常識：米国留学経験から学んだこと

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍学講座 泌尿器科学分野

吉野 裕史*

抄録：

泌尿器科医にとって大学院卒業後の海外研究留学は選択肢の一つである。一方、最近では、日本の研究力低下が取りざたされており、その原因の一つとして日本人の海外留学者数減少が考えられている。私は大学卒業後、約10年間臨床と大学院を経験した後、2013年7月から米国のシンシナティ大学に2年間研究留学した。そこで、米国留学から実際に感じた日本と海外の違いを示し、海外留学の必要性や魅力を紹介したい。

(西日泌尿. 86 : 217-218, 2024)

キーワード：海外留学，研究留学，日本と海外の違い

緒 言

泌尿器科医にとって大学院卒業後の海外研究留学は選択肢の一つであるが、私は大学卒業後、約10年間臨床と大学院を経験した後、2013年7月から米国のシンシナティ大学に2年間研究留学した。研究留学を志した理由は、海外で異なる文化や思考、異なる経験を持つ人たちと共に、癌の予防や治療に応用されるような基礎研究に取り組みたいと以前より考えていたからである。一方、最近では、日本の研究力低下が取りざたされており、その原因の一つとして日本人の海外留学者数減少が考えられている。海外で生活することは楽しい事ばかりではないが、異なる環境で働くことによって得られる事も多く、海外の文化や医療を肌で感じられるのが大きな利点であると同時に、後の人生において大きな財産になると考える。そこで、米国留学から実際に感じた日本と海外の違いを具体的に示し、海外留学の必要性や魅力を紹介したい。

①研究者の階層構造の違い

客観的な視点から回答を得るために、ChatGPTを使用して日本の常識と海外の非常識、特に研究における違いについて質問し幾つかの回答を得た。その中で、研究者の階層構造において日本と米国では大きな違いがあることを示した (Fig. 1)。日本の研究機関や大学では上下の階層構造が強調されることがあり指導教授との関係が非常に重要視されるのに対して、米国では研究者間の平等な対話や協力がより一般的であり、更に米国では

Principal Investigator (PI) になれば自身の研究方針や論文のオーナーシップを自ら決定できる独自の環境が存在することを示した。

②インフレが当たり前の社会

私が留学した当時のシンシナティ大学の学長の年俸は80万ドルくらいであったと記憶しているが、現在の年俸は100万ドルで、現在の日本円に換算すると約1.5億円になっていた。また、アメリカのポストドクの最低賃金が10年前の3.5万ドルから2023年には5.5万ドルに上昇していることを示した。家賃に関しても、留学中、毎年のように少しずつ上昇していた。日本では長らくデフレが続いていたが、一方、アメリカでは物価だけでなく給与も常に上昇しているインフレの社会であることを示した。

③泌尿器科医以外の方とのネットワーク

留学中は、日本での泌尿器科医に囲まれて働いている環境とは異なる環境で生活や仕事をするため、泌尿器科医以外の人々とのネットワークを形成することができる。

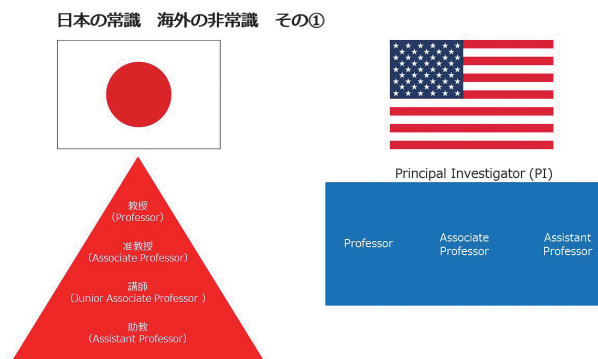


Fig. 1 研究者の階層構造の違い

* 〒 890-0075 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1 医歯学総合研究科棟 3(7階)
TEL 099-275-5395, FAX 099-275-6637
E-mail hyoshino@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp

更に、その関係性は時間を経ても続き、それが共同研究や友情といった形で深まり、新たな視点や経験をもたらしている。

④海外に住んでいるだけでは英語は上達しない

海外留学をすると自然に英語が話せる様になると多くの人に考えられているが、実際は単に海外に住んでいるだけでは状況に即して対応するパターンは学べても英語自体は上達しない。研究留学の場合は、実験に迫られる日々が当たり前で、そのため英語を使う機会が限られていることや、実験が終われば日常生活でも英語を使う必要がないことが理由である。その為、海外留学をしたとしても、積極的な学習手段の活用が重要である。

⑤日本からの論文が減少

留学者数に目を当ててみると、日本の教育機関への外国人留学者数は増加傾向にある一方で、逆に日本からの留学者数は減少傾向にある。また、日本の研究機関からの論文に関するデータを見てみると、論文数は全体的には横ばい状態であるが、Top10 %および1 %の論文数では他国と比べて順位を落としており (Fig. 2)¹⁾、国際的な競争力の低下が示唆される。鹿児島県の「若き薩摩の群像」の銅像を紹介し、先人たちが留学経験を通じて学び、挑戦し、日本の発展に貢献した例を挙げ、同様の挑戦が今日においても重要であると説いた。

⑥現実には想像を超えている

留学にはメリットとデメリット、リスクとベネフィットがあるが、留学の願望はあってもデメリットやリスク

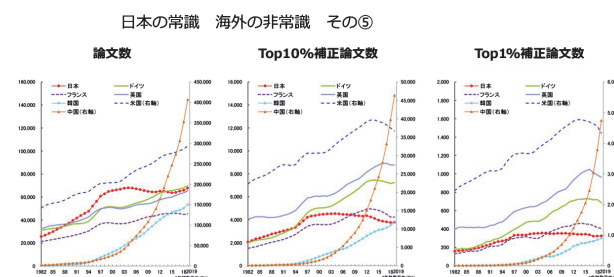


Fig. 2 日本からの論文が減少

ばかりに注目し結局留学を選ばない人がいる。しかしながら、留学しないと得られない経験や視点があり、留学を通じて初めて見ることでできる景色や新しい発見がある。実際の経験や新しい視点を通じて予想を超えた価値をもたらす可能性が海外留学にはある。

結 語

海外留学にはメリットとデメリット、リスクとベネフィットがあるが、それでも海外留学は予想を超えた価値をもたらす可能性があり、挑戦が今日においても重要である。

文 献

- 1) <https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusiki-sha/20220818/siryo2.pdf>

COMMON SENSE IN JAPAN AND INSANITY ABROAD: WHAT I LEARNED FROM STUDYING IN THE U.S.

HIROFUMI YOSHINO

Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences,
Kagoshima University, Kagoshima, Japan

Abstract

For urologists, studying abroad for research after graduate school is an option. On the other hand, recently there has been much talk about the decline in Japan's research capabilities, and one of the reasons for this is thought to be the decrease in the number of Japanese studying abroad. After graduating from university, I spent about 10 years in clinical practice and graduate school before going to the University of Cincinnati in the U.S. for two years from July 2013 for research. Therefore, I would like to show the differences between Japan and other countries that I actually felt from my study abroad in the U.S. and introduce the necessity and attractiveness of studying abroad.

(Nishinohon J. Urol. **86**: 217-218, 2024)

key words: Study abroad, research study abroad, differences between Japan and other countries